
敦賀発電所2号炉
敷地の地形, 地質・地質構造
K断層の活動性評価に関する
詳細観察箇所及びその状況

令和6年1月11日
日本原子力発電株式会社

余白

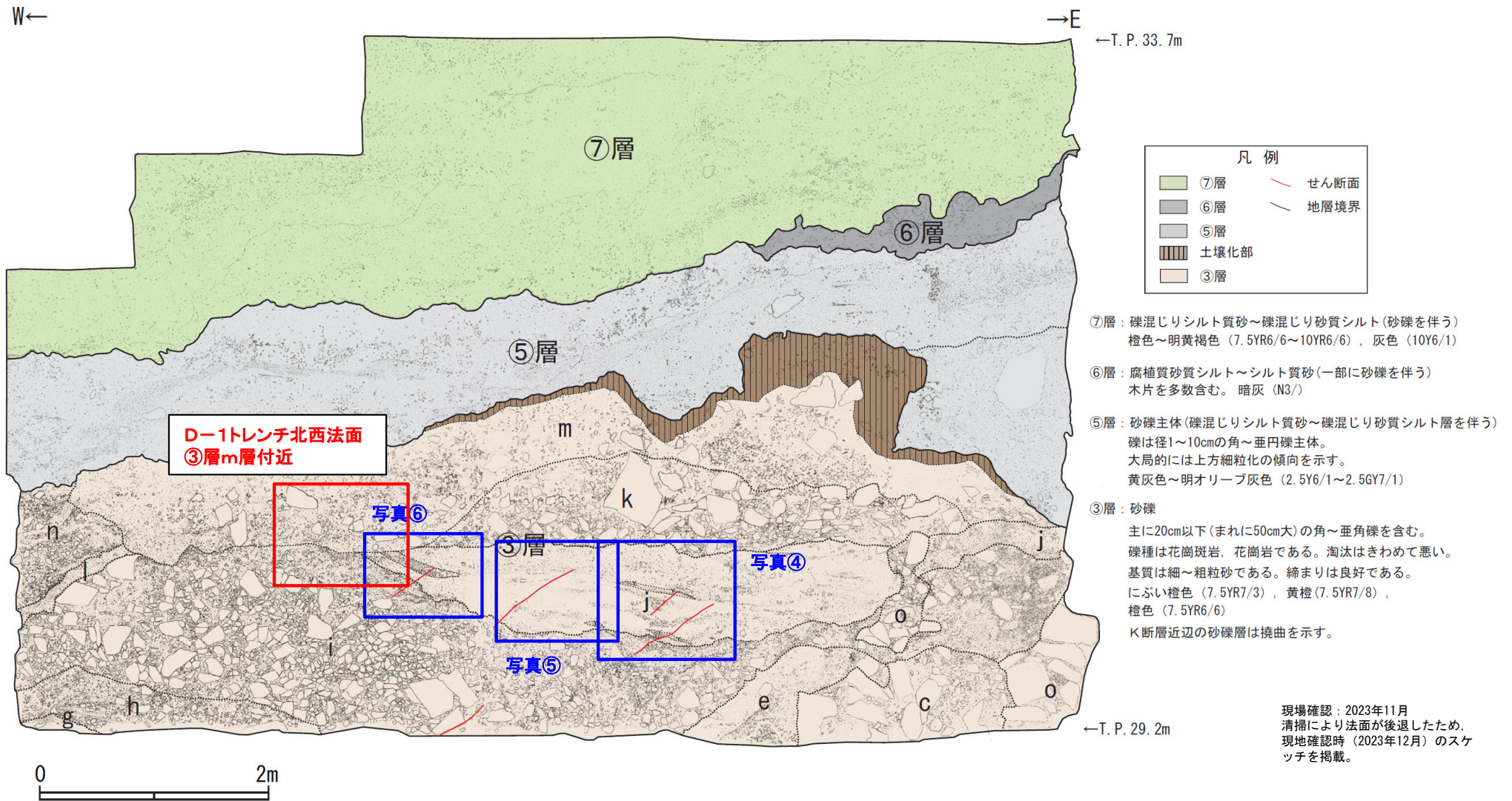
詳細観察を行う箇所及びその状況(詳細スケッチ, 写真)

- 現地調査におけるコメント「ブロックサンプル採取の際は、事前に現状を鮮明な写真と詳細スケッチにて保存し、説明すること。(第1回現地調査コメント No.現地調査-2)」を踏まえて、詳細観察を行う箇所及びその状況(詳細スケッチ, 写真)を以下に示す。なお、詳細スケッチ作成と写真撮影のため観察面の清掃・整形を行う。

No.	詳細観察を行う箇所	コメント内容	詳細スケッチ, 写真の状況	該当頁
現地調査-7	D-1トレンチ北西法面 ③層m層付近	D-1トレンチ北西法面の③層のm層下段の割れ目のようなものについて再確認すること。	写真作業中。 終了後、詳細スケッチ作成着手。	4,5
現地調査-9	D-1トレンチ北西法面 ⑦層	D-1トレンチ北西法面の⑦層中の複数の割れ目について、追加の観察を行うこと。	写真作業中。 終了後、詳細スケッチ作成着手。	6,7
現地調査-12	原電道路ピット	原電道路ピットにおいて、現地調査のための最新スケッチ作成において確認したK断層の延長上にある割れ目のようなものをK断層としていない根拠を示すこと。	写真作業中。 終了後、詳細スケッチ作成着手。	8,9
現地調査-13	ふげん道路ピット(北、中)	ふげん道路ピットにおいて、K断層が③層のD3層で切られているかC3層の途中でせん滅しているかが分かりにくいいため、追加の観察を行うこと。 また、礫層中でせん断面をトレースしている理由を示す資料を追加すること。	写真作業中。 終了後、詳細スケッチ作成着手。	8,10,11
現地調査-14	ふげん道路ピット (南)	ふげん道路ピット東法面(上段)において、K断層の北から3つ目のせん断面(C1層中)の分布について確認すること。	写真作業中。 終了後、詳細スケッチ作成着手。	8,12

※赤字は、令和5年12月22日面談を踏まえて、修正した箇所。

2.3.1 活動性評価(北西法面) 追加せん断面 (法面掘り込みスケッチ)

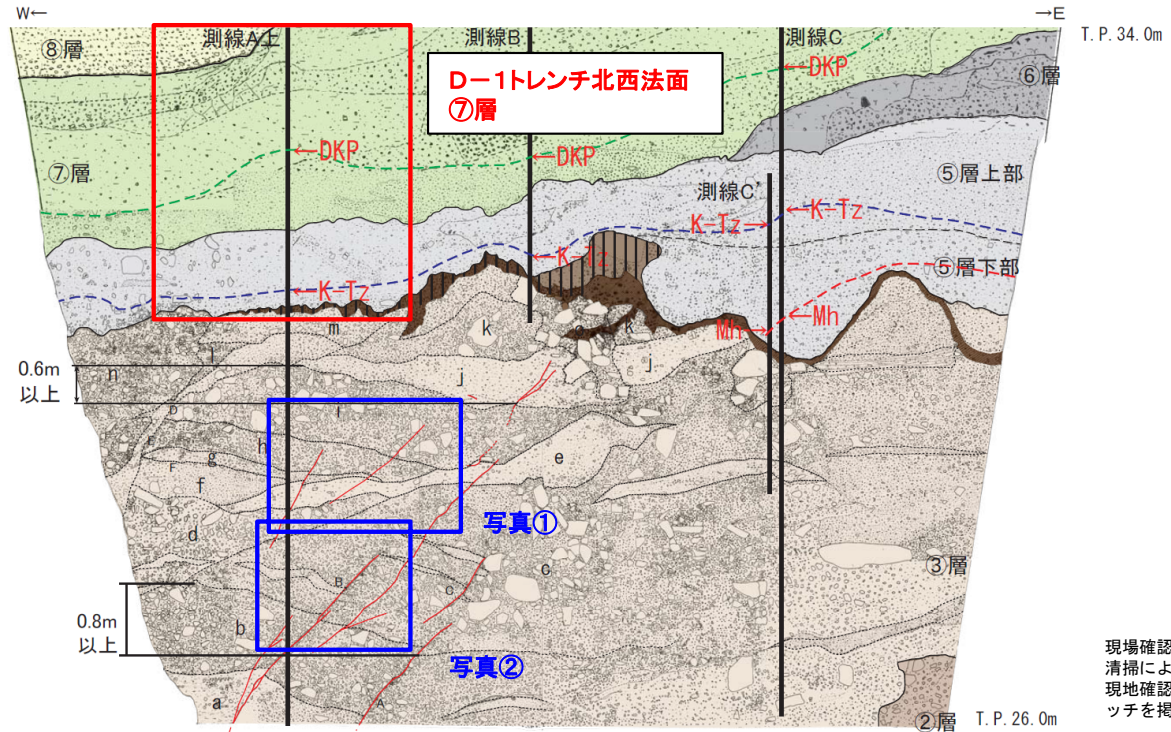


D-1トレンチ北西法面 ③層m層付近

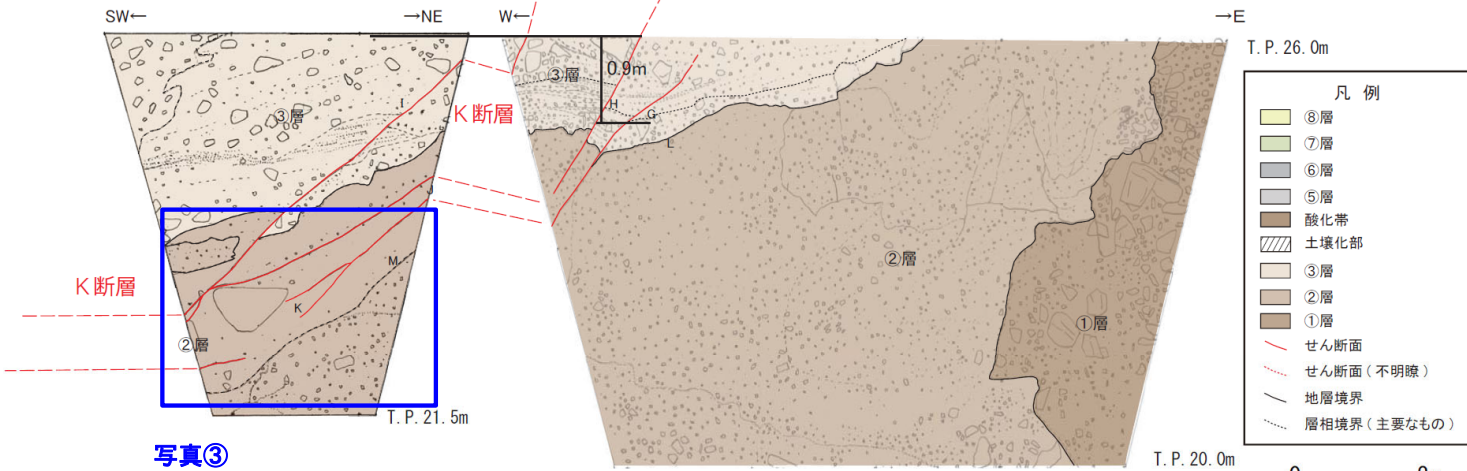


2.3.1 活動性評価(北西法面付近 追加せん断面)

- ⑧層：砂礫
礫径5cm以下、特に1cm以下の角～亜角礫を主体とし、まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩、アブライト、石英である。基質はシルト質細～中粒砂からなり、ゆるい。成層構造（ほぼ水平、一部斜交葉理様）が見られる。黄（7.5YR4/6）、黄橙（7.5YR7/8）を呈する。
 - ⑦層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト（砂礫を伴う）
橙色～明黄褐色（7.5YR6/6～10YR6/6）、灰色（10Y6/1）を呈する。
 - ⑥層：腐植質砂質シルト～シルト質砂（一部に砂礫を伴う）
木片を多数含む。
暗灰（N3/）、灰（10Y6/1）を呈する。
 - ⑤層：砂礫主体（礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト層を伴う）
礫は径0.5～20cmの角～亜円礫主体。
大局的には上方細粒化の傾向を示す。
黄灰色～明オリーブ灰色（2.5Y6/1～2.5GY7/1）を呈する。
- 酸化帯：③層と⑤層の境界付近に多い。
- ③層：砂礫
主に20cm以下（まれに50cm大）の角～亜角礫を含む。
礫種は花崗斑岩、花崗岩である。淘汰は極めて悪い。
基質は細～粗粒砂で、締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。
にぶい橙色～棕色（7.5YR7/3～7.5YR6/6）を呈する。
K断面近辺の砂礫層は、拗曲を示す。
 - ②層：礫混じりシルト
礫径0.2～30cm（まれに50cm以上）で、亜角～角礫を含む。
礫種はアブライト、粗粒花崗岩からなる。礫率10～20%である。
にぶい橙色～明青灰色（5YR6/4～10B6/1）を呈する。
 - ①層：砂礫
礫径0.5～30cm（最大100cm以上）で、亜角～角礫を含む。
礫種は花崗斑岩、粗粒花崗岩、アブライト、石英である。淘汰は悪い。
基質は砂質シルトで、締まりは良好である。
黄褐色（10YR5/8）を呈する。



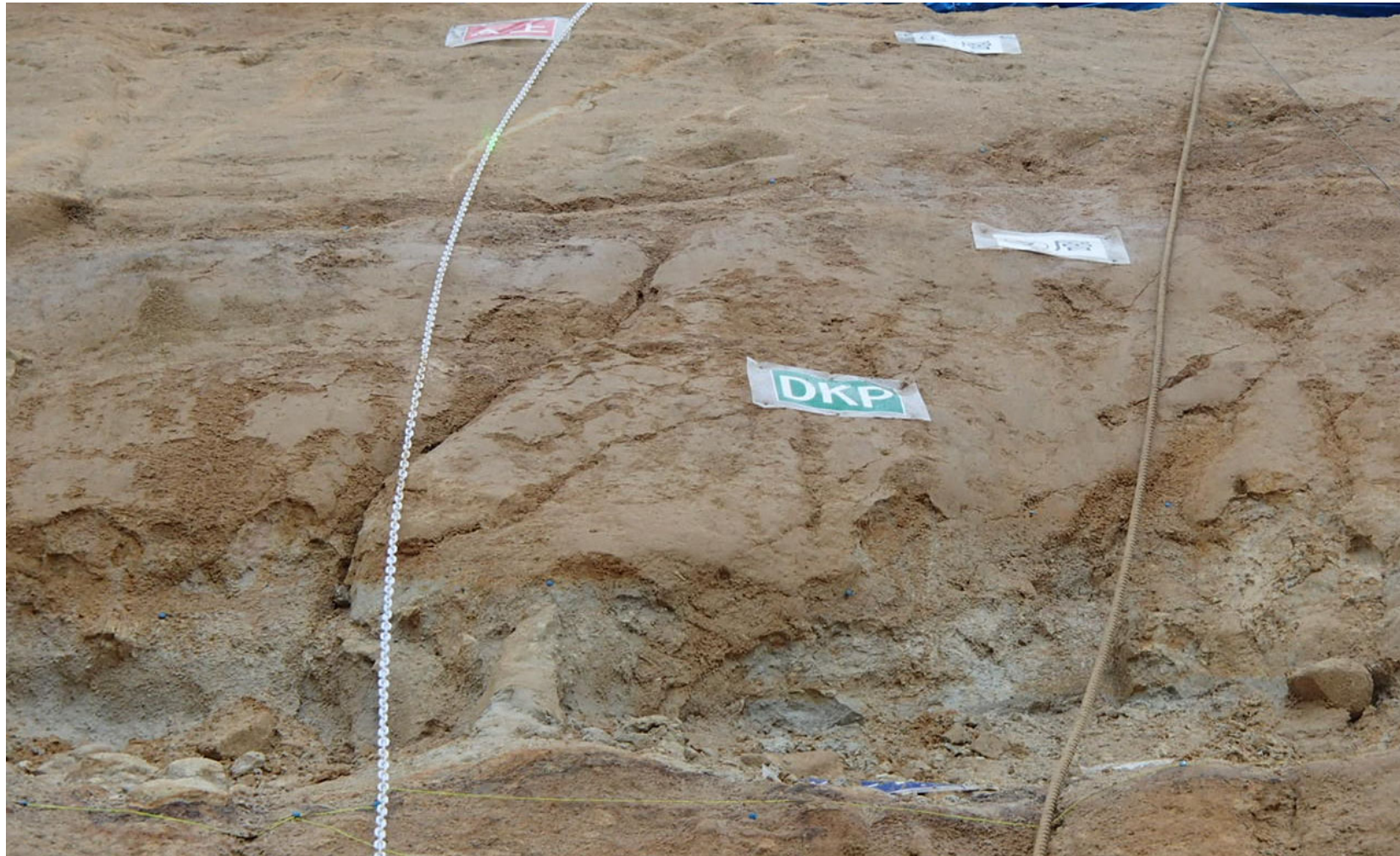
現場確認：2023年11月
清掃により法面が後退したため、
現地確認時（2023年12月）のスケ
ッチを掲載。



- A：せん断面：N25° E58° W
- J：せん断面：N9° W44° W
- B：せん断面：N20° E63° W
- K：せん断面：N13° E48° NW
- C：せん断面：N22° E57° W
- L：層理面（②層③層境界）：N47° W20° SW
- D：層理面（チャネル壁）：N87° W42° S
- M：層理面：N19° E56° NW
- E：層理面（チャネル壁）：N33° W46° W
- F：層理面（堆積構造）：N69° E16° S
- G：せん断面：N41° E60° NW
見かけ15cm変位（逆断層）
- H：せん断面：N33° E72° NW
見かけ10cm変位（逆断層）
- I：せん断面：N11° W64° W

現地調査資料【資料-1】2-117頁に赤字及び赤枠を追記

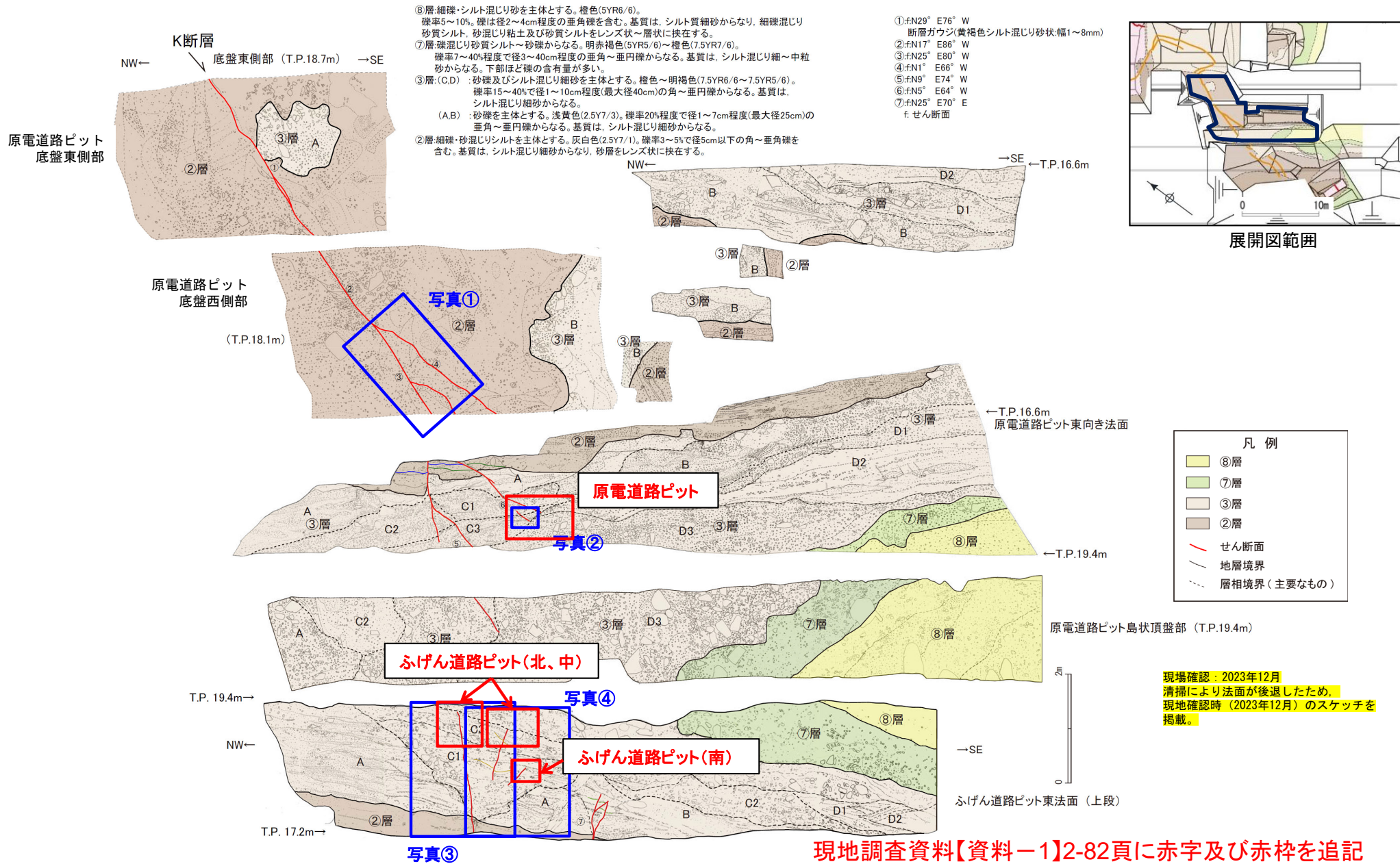
D-1トレンチ北西法面 ⑦層



現地調査時(2023年12月)撮影

2.2.8 原電道路ピット～ふげん道路ピット(原電道路ピット底盤～ふげん道路ピット東法面 スケッチ)

- 原電道路ピットの底盤部で、K断層は②層及び③層を変位させ、N-S方向とNNE-SSW方向の2条の断層に分岐しながら、原電道路ピット東向き法面に連続している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)で確認された断層について、K断層の特徴である逆断層センスの変位が認められる。また、原電道路ピット東向き法面に連続するK断層のうちD3層に傾斜不整合で覆われるK断層の延長上に位置しており、走向・傾斜やD3層との関係も調和的である。以上のことから、ふげん道路ピット東法面(上段)で確認された断層はK断層であると評価した。



原電道路ピット



現地調査時(2023年12月)撮影

ふげん道路ピット(北)



現地調査時(2023年12月)撮影

ふげん道路ピット(中)



現地調査時(2023年12月)撮影

ふげん道路ピット(南)



写真④:スケッチ追加K断層

撮影:2023年12月